

令和7年8～9月の県内における

アメリカシロヒトリの被害状況について

1 はじめに

アメリカシロヒトリは、アメリカ等から侵入した外来害虫であり、日本に定着して以降、しばしば大発生が確認されています。幼虫は雑食性で、さまざまな広葉樹を食害することが知られており、被害を受けた樹木は、ひどい場合には葉脈だけを残して葉がほとんど失われます。県内では過去にも被害が確認されており、今年も前述の被害が発生しています。今回は、発生状況の現地調査を実施した結果と、発生時の対処方法について紹介します。

2 アメリカシロヒトリとは

アメリカシロヒトリは、チョウ目ヒトリガ科のガで、成虫は体長22～36mmで、体と翅はともに白色です。年に2回（5～6月および7～8月）発生し、葉の裏に200～800個の卵をまとめて産みます。幼虫は成熟すると約30mmになり、頭部は黒褐色、胴部は灰黒色と淡黄色で、白色

の長毛を持ちます（写真1）。孵化

直後の幼虫は集団で枝や葉に糸を張り、天幕状の巣を作って葉の表皮と葉脈を残して食害します（写真2）。成長に伴い分散し、単独で葉を食害するようになります。成熟後は樹皮の割れ目などにマユを作り、その中で蛹になります。

3 調査結果

令和7年8～9月にかけて、アメリカシロヒトリの被害調査を実施し、加害された樹種と発生位置を記録しました。

(1) 加害された樹木

現地調査では、以下の樹木に被害が確認されました。アキニレ、オオムラサキツツジ、オニグルミ、カスミザクラ、カキノキ、コナラ、タチヤナギ、ドウダンツツジ、シナノキ、ソメイヨシノ、ニワウルシ、ヤマブク。特にオニグルミ、カキノキ、ソメイヨシノ、ヤマブクにおいて被害が多く見られました。

(2) 発生位置

現地調査では、幼虫や枝に天幕状の網が張られた樹木が各地に見られました（図）。被害は内陸部を中心に、森林の林縁、河川敷、公園樹、街路樹などで確認され、特に北上川の河川敷では、ほとんどの樹木が食害され、葉が失われている地点がありました（写真3）。

4 発生時の駆除方法

基本的に、発生した場合は所有者自身による駆除が必要です。駆除方法は、幼虫が天幕状の巣から分散する前と分散した後で異なるため、状況に応じた対応が求められます。

(1) 分散する前

この段階では、天幕状の巣の部分を剪定バサミや高枝切りバサミで切り落とし（写真4）、幼虫を踏み潰すなどして駆除します。分散前に駆除することで、より高い効果が期待できます。

(2) 分散した後

幼虫が成長して分散し、個別に行動するようになると、殺虫剤の散布が有効です。使用可能な薬剤には、スミチオン乳剤、トレボン乳剤、トアロー水和剤CTなどがあります（いずれもアメリカシロヒトリが適用害虫として記載されているもの）。薬剤散布を行う際は、農薬ラベルに記載された使用方法を遵守し、周辺の作物や住居への飛散、ミツバチなどへの影響に十分配慮してください。

5 おわりに

今回の調査では、アメリカシロヒトリによつて食害された樹木のうち、早いものでは再度展葉している例も見られましたが、展葉しきれていない樹木も多く確認されました。葉が大規模に食害されると、樹木の成長に悪影響を及ぼす可能性があると考えられています。また、被害が複数年にわたって継続する場合は、樹木が枯死に至る可能性もあるため、被害状況に応じて駆除を行う必要があります。

岩手県林業技術センター研究部

主任専門研究員 皆川 拓

TEL 019 (697) 1536

FAX 019 (697) 1410

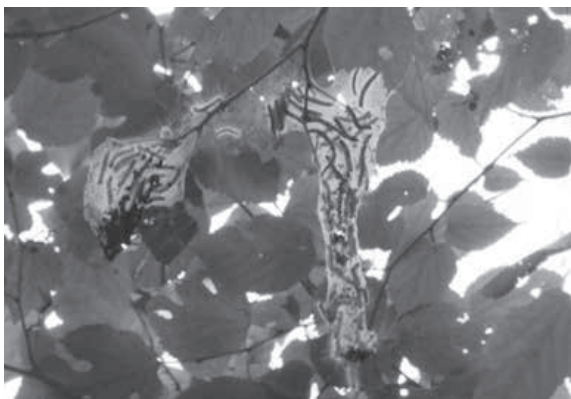


写真2 天幕状の巣



写真1 アメリカシロヒトリの幼虫



写真4 天幕状の巣の切除



写真3 北上川沿いの公園の被害状況



図 アメリカシロヒトリ被害の発生位置

- ・現地調査を行った位置のみで、全ての被害を調査したものではありません。
- ・天幕状の巣若しくはアメリカシロヒトリ幼虫が確認された地点を発生位置としています。
- ・○が大きい地点は被害木が多かった地点